

甲 第 号

小川 浩平 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲	第	号	氏名	小川 浩平
論文審査担当者		委員長		教授 田中 康仁	
		副委員長		教授 岸本 年史	
		委員		教授 三笠 桂一	
		委員		教授 吉川 正英	
		委員		教授 浅田 秀夫	
		(指導教員)			

主論文

Identification of thymus and activation-regulated chemokine (TARC/CCL17) as a potential marker for early indication of disease and prediction of disease activity in drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS)/ drug rash with eosinophilia and systemic symptoms (DRESS).

血清 TARC/CCL17 値は薬剤性過敏症候群 (DIHS) の早期診断および病勢の指標となりうる。

Kohei Ogawa, Hironori Morito, Ayako Hasegawa, Natsuko Daikoku, Fumi Miyagawa, Aiko Okazaki, Takaya Fukumoto, Nobuhiko Kobayashi, Takahiko Kasai, Hideaki Watanabe, Sueki Hirohiko, Masafumi Iijima, Mikiko Tohyama, Koji Hashimoto, Hideo Asada

Journal of Dermatological Science 第 69 巻 第 1 号 38-43 頁, 2013 年 1 月発行

論文審査の要旨

TARC は CC ケモカインのひとつで、アトピー性皮膚炎の病勢マーカーとして広く用いられている。薬剤性過敏症症候群 (DIHS) は、発熱、多臓器障害、HHV-6 再活性化を伴う重症薬疹の一つである。本研究では、DIHS、スティーブンス・ジョンソン症候群/中毒性表皮壊死症 (SJS/TEN)、紅斑丘疹型薬疹 (MPE) の 3 群について血清 TARC 値を比較し、急性期の TARC 値が、SJS/TEN、MPE と比べ DIHS では有意に高値を示し、さらに DIHS の皮疹の活動性や可溶性 IL-2 受容体値、IL-5 値、好酸球数と相関することを明らかにしている。さらに免疫組織化学染色により皮疹部の CD11c 陽性真皮樹状細胞が TARC を発現していることも明らかにした。以上より、血清 TARC 値が DIHS の早期診断の有力なマーカーとなりうることが判明し、さらに疾患活動性の指標としても役立つことをも示した。

本研究は、血清 TARC 値が DIHS の診断と疾患活動性の指標として有用であることを示しており、臨床的に非常に有意義な研究であると評価できる。また本研究の知見は、未だ不明な点が多い DIHS の病態を解明する手掛かりとなりうるものと考えられ、今後のさらなる発展が期待される。公聴会における質疑応答も的確であり、参考論文と合わせて医学博士の学位に十分値する研究であると評価する。

参 考 論 文

1. Case of drug-induced hypersensitivity syndrome involving multiple-drug hypersensitivity.

Ogawa K, Morito H, Kobayashi N, Fukumoto T, Asada H

THE JOURNAL OF DERMATOLOGY 39: 945-946, 2012

2. Drug-induced hypersensitivity syndrome followed by persistent arthritis.

Morito H, Ogawa K, Kobayashi N, Fukumoto T, Asada H

THE JOURNAL OF DERMATOLOGY 39: 178-179, 2012

3. AIDS に合併した中毒性表皮壊死症に血漿交換療法が奏効した 1 例

小川浩平、長島千佳、北村華奈、福本隆也、浅田秀夫

皮膚科の臨床 53:609-614, 2011

4. 潰瘍性大腸炎に合併した致死的水痘の 1 例

小川浩平、長島千佳、北村華奈、横井祥子、野口隆一、増谷剛、浅井英樹、川井

廉之、小林信彦、浅田秀夫

皮膚の科学 10:71-75, 2011

5. 毛包向性菌状息肉症 (folliculotropic mycosis fungoides) の 1 例

小川浩平、森戸啓統、福本隆也、長谷川正俊、浅田秀夫

Skin Cancer 25:145-149, 2010

6. 経膣分娩後に発症した Toxic shock syndrome の 1 例

伊東由美子、森本圭介、小川浩平、福本隆也、小林信彦、浅田秀夫、笠原敬、大野

木輝

皮膚の科学 10:417-423, 2011

7. TS-1 による DLE 型薬疹の 1 例

長谷川文子、小川浩平、福本隆也、小林信彦、浅田秀夫

臨床皮膚科 65:768-772, 2011

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに皮膚病態医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 25 年 3 月 6 日

学位審査委員長

運動器再建医学

教授 田中 康仁

学位審査副委員長

精神医学行動神経科学

教授 岸本 年史

学位審査委員

感染病態制御医学

教授 三笠 桂一

学位審査委員

生体防御・修復医学

教授 吉川 正英

学位審査委員（指導教員）

皮膚病態医学

教授 浅田 秀夫